

上映スケジュール CALENDRIER

8.27(土)	15:00	《アリス・ギイ作品集》13作 13 courts métrages d'Alice Guy (50分) オープニングトーク：上映後、坂本安美によるレクチャーあり suivi d'une conférence par Abi Sakamoto (約40分)
	17:00	奥様は妊娠中 <i>Énorme</i> (101分)
8.28(日)	15:00	35杯のラムショット 35 Rhums (100分)
	17:00	アトランティック <i>Atlantique</i> (106分)
8.29(月)	17:15	パリ 1900年 <i>Paris 1900</i> (83分)
	19:00	グッバイ・ファーストラブ <i>Un amour de jeunesse</i> (110分)
8.30(火)	17:15	ドン・カルロスのために <i>Pour Don Carlos</i> (80分) 上映前、坂本安美による作品紹介あり(約10分) précédé d'une présentation par Abi Sakamoto
	19:00	微笑むブーデ夫人 <i>La Souriante Mme Beudet</i> (43分) 魔王 <i>Le Roi des Aulnes</i> (54分) 上映前、坂本安美による作品紹介あり(約10分) précédé d'une présentation par Abi Sakamoto
8.31(水)	17:15	グッバイ・ファーストラブ <i>Un amour de jeunesse</i> (110分)
	19:30	微笑むブーデ夫人 <i>La Souriante Mme Beudet</i> (43分) 魔王 <i>Le Roi des Aulnes</i> (54分)
9.1(木)	17:15	ヴィクトリア <i>Victoria</i> (97分)
	19:15	ドキュメントゥール <i>Documenteur</i> (63分)
9.2(金)	17:15	奥様は妊娠中 <i>Énorme</i> (101分)
	19:30	《アリス・ギイ作品集》13作 13 courts métrages d'Alice Guy (50分)
9.3(土)	15:00	パリ 1900年 <i>Paris 1900</i> (83分)
	17:00	パリ、18区、夜 <i>J'ai pas sommeil</i> (109分)
9.4(日)	15:00	オリヴィア <i>Olivia</i> (96分) 上映前、坂本安美による作品紹介あり(約10分) précédé d'une présentation par Abi Sakamoto
	17:15	シモーヌ・バルベス、あるいは淑徳 <i>Simone Barbès ou la vertu</i> (76分) 上映前、坂本安美による作品紹介あり(約10分) précédé d'une présentation par Abi Sakamoto
9.5(月)	17:00	パリ 1900年 <i>Paris 1900</i> (83分)
	19:00	パリ、18区、夜 <i>J'ai pas sommeil</i> (109分)
9.6(火)	17:00	ヴィクトリア <i>Victoria</i> (97分)
	19:00	ドン・カルロスのために <i>Pour Don Carlos</i> (80分)
9.7(水)	17:00	《アリス・ギイ作品集》13作 13 courts métrages d'Alice Guy (50分)
	18:30	アトランティック <i>Atlantique</i> (106分)
9.8(木)	17:00	ドン・カルロスのために <i>Pour Don Carlos</i> (80分)
	19:00	シモーヌ・バルベス、あるいは淑徳 <i>Simone Barbès ou la vertu</i> (76分)
9.9(金)	17:00	オリヴィア <i>Olivia</i> (96分) 上映前、坂本安美による作品紹介あり(約10分) précédé d'une présentation par Abi Sakamoto
	19:00	ドキュメントゥール <i>Documenteur</i> (63分) 上映後、クローゼントークあり：斉藤綾子(ゲスト) suivi d'une conférence par l'invitée spéciale Mme Ayako Saito (約40分)

特集 フランス映画の女性パイオニアたち

[主催] アンスティチュ・フランセ横浜 [共催] 横浜シネ・ジャック&ベティ [助成] アンスティチュ・フランセパリ本部、[アンスティチュ・フランセ日本映画プログラムオフィシャル・パートナー] 笹川日仏財団、TV5 MONDE [フィルム提供及び協力] アレナ・フィルム、エル・ドライバー、レ・フィルム・デュ・ジュディ、MK2、マーメイド・フィルムズ、国立映画アーカイブ、プレイタイム、ラ・トラヴェルス

Pionnières de l'histoire du cinéma

Organisé par : Institut français de Japon - Yokohama et Yokohama Cinema Jack & Betty ; avec le soutien de : Institut français, Fondation Sasakawa, TV5 MONDE ; Remerciements : Arena Films, Elle Driver, Les Films du Jeudi, MK2, Mermaid Films, National Film Archive of Japan, Playtime, la Traverse.

INSTITUT
FRANÇAIS



TV5
MONDE

【会場・お問い合わせ】

横浜シネマ・ジャック&ベティ



〒231-0056 横浜市中区若葉町 3-51

Tel | 045-243-9800

Web | www.jackandbetty.net

○京浜急行「黄金町駅」から徒歩 5分

○市営地下鉄「阪東橋駅」3-A 出口から徒歩 6分

【料金】

一般：1500円／大専・シニア 1200円／高校以下、ジャック&ベティ会員、アンスティチュ・フランセ会員：1000円

(アンスティチュ・フランセ横浜会員は、ポイントカードの3ポイントで1回無料)

開場時間：10分前

【チケット販売】

チケットは、オンライン・劇場窓口共に、ご鑑賞日の3日前から指定席で発売します。

【お問い合わせ】

アンスティチュ・フランセ横浜

〒231-0015

横浜市中区尾上町 5-76 明治屋尾上町ビル 7階

Tel | 045-201-1514

Web | www.institutfrancais.jp/yokohama/



横浜でフランス語を学ぶ！
フランス文化と出会う！

Bonjour la France!

アンスティチュ・フランセ横浜 (フランス政府公式機関)

www.institutfrancais.jp/yokohama

tel : 045-201-1514

mail : yokohama@institutfrancais.jp

©Ministère des Affaires étrangères et européennes / Antoine Arzou



PIONNIÈRES DE L'HISTOIRE DU CINÉMA

特集 | フランス映画の女性パイオニアたち

2022. **8.27**土 - **9.9**金
du 27 août au 9 septembre 2022

会場 | 横浜シネマ・ジャック&ベティ
à Yokohama Cinema Jack & Betty

ゲスト | 斉藤綾子 (明治学院大学教授、映画研究者)
作品紹介 | 坂本安美 (アンスティチュ・フランセ日本、映画プログラム主任)
Invitée : Ayako Saito / Intervenante : Abi Sakamoto



特集 | フランス映画の女性パイオニアたち

今年3月に国立映画アーカイブで開催されました「フランス映画を作った女性監督たち―放浪と抵抗の軌跡」につづき、映画の黎明期から現在に至るまでのフランス映画史を辿り、創造性にあふれ、将来のフランス映画を担う革新性を備えた気鋭の女性映画監督たちを特集します。映画の黎明期より、多くのアイデア、試みによってこの新しいアートに変革を起こしてきましたが、その貢献は長い間、正当に評価されず、忘却されてきました。世界最初期の映画監督アリス・ギイから、新世代の監督たちまで、それぞれの時代を牽引したパイオニアたちの作品をぜひスクリーンでご覧ください。

◆映画黎明期からトーキー初期まで◆



《アリス・ギイ作品集》13作 ***13 courts métrages*** d' Alice Guy （フランス/計50分/デジタル）

物語映画の最初期の監督であるアリス・ギイ(1873-1968)のフランス時代の短編13本。作品ごとに新たな表現や技法を開拓し、アクション、コメディ、メロドラマとジャンルも様々に横断しながら、アイデアに満ちた物語が展開する。多くの作品が屋外で撮影されており、パリの街をはじめ、当時のフランスの様子も見えてくる。

催眠術師の家で *Chez le magnétiseur* （1898年/1分/モノクロ）| 世紀末の外科医 *Chirurgie fin de siècle* （1900年/2分/モノクロ）| オペラ通り *Avenue de l'Opéra* （1900年/1分/モノクロ）| 全自動の帽子屋兼肉屋 *Chapellerie et Charcuterie mécaniques* （1900年/1分/モノクロ）| カメラマンの家で *Chez le photographe* （1900年/1分/モノクロ）| フェリックス・マヨル 失礼な質問 *Questions indiscrètes* （1905年/3分/染色）| マダムの欲望 *Madame a des envies* （1906年/5分/モノクロ）| フェミニズムの結果 *Les résultats du féminisme* （1906年/8分/モノクロ）| キャスター付きベッド *Le Lit à roulettes* （1907年/4分/モノクロ）| ソーセージ競争 *La Course à la saucisse* （1907年/5分/モノクロ）| ビュット＝ショーモン撮影所でフォノセーヌを撮るアリス・ギイ *Alice Guy tourne une phonoscène* （1907年/2分/モノクロ）| パリケードを挟んで *Sur la barricade* （1907年/5分/モノクロ）| 銀行券 *Le Billet de banque* （1907年/12分/モノクロ）



ドン・カルロスのために ***Pour Don Carlos*** de Musidora, Jacques Lasseyne

（フランス＝スペイン/1921年/80分/サイレント・伴奏つき/染色/デジタル）

監督：ミュジドラ、ジャック・ラセーヌ 出演：ミュジドラ、スティーヴン・ウェバー、アベル・タリド

サイレント映画のスター女優ミュジドラ(1889-1957)がスペインのバスク地方で撮った初の自主制作作品。19世紀末のスペイン王位継承権をめぐるドン・カルロス派(カルリスタ)とイザベル2世派が争ったカルリスタ戦争を題材に、若い役人とドン・カルロス派のミュージズを描く。ミュジドラ自ら妖しく、狡猾で、しかし最後は恋する男のために命をかけるミュージズを演じる。



微笑むブーデ夫人 ***La Souriante Mme Beudet*** de Germaine Dulac

（フランス/1923年/43分/サイレント・伴奏つき/モノクロ）

監督：ジェルメーヌ・デュラック 出演：ジェルメーヌ・デルモーズ、アレクサンドル・アルキリエール

1920年代の前衛芸術の先駆者であるジェルメーヌ・デュラック(1882-1942)の『貝殻と僧侶』(1928)とならぶ代表作でフェミニスト映画の先駆と評される。映画の様々な技法を駆使し、夫の醜悪さ、妻の絶望、そして自由への渴望が見事に表現されている。



魔王 ***Le Roi des Aulnes*** de Marie-Louise Iribe （フランス/1931年/54分/モノクロ/デジタル）

監督：マリー＝ルイズ・イリブ、ジャン・マルゲリット 出演：ジョー・アマン、オットー・ゲビューア、レイモン・ラボン

ルイ・フィヤード監督作品などに出演したマリー＝ルイズ・イリブ(1894-1934)がゲーテの詩によるシューベルトの歌曲『魔王』に着想を得て撮った、驚きに満ちたおとぎ話。父が息子を馬に乗せて旅する森の中のロケーションや、光の詩的な使用方法、二重露光の多様、巨大な魔王の登場など大胆な演出で魅せる。

◆戦後から 90年代まで◆



パリ1900年 ***Paris 1900*** de Nicole Védres （フランス/1947年/83分/モノクロ/デジタル）

監督：ニコル・ヴェドレス

1900年から1914年までのパリを、ナレーションと約700本以上の記録・劇映画からの抜粋で綴り、当時の人々の生活と戦争への予感を見事に描き出したニコル・ヴェドレス(1911-1965)の傑作ドキュメンタリー。映画批評家アンドレ・バザンに「文学におけるブルーストに匹敵する」と称え、クリス・マルケルも「私はニコル・ヴェドレスにすべてを負っている」と敬愛の念を示している。



オリヴィア ***Olivia*** de Jacqueline Audry （フランス/1951年/96分/モノクロ/デジタル）

監督：ジャクリーヌ・オードリー

女子寄宿学校を舞台に、女性教師に恋心を抱き、性的なめざめも体験していくオリヴィアを描く。ジャクリーヌ・オードリー（1908-1977)はアニエス・ヴァルダ以前、戦後フランスで唯一の長編映画女性監督。監督5作目となる本作は2019年に復元され、女性の欲望を肯定し、同性愛を正面から描いた先駆的作品としてあらためて発見され、評価が高まっている。



ドキュメントゥール ***Documenteur*** d'Agnès Varda （フランス＝アメリカ/1981年/63分/カラー/デジタル）

監督：アニエス・ヴァルダ 出演：サビーヌ・مام、マチュー・ドゥミ、デルフィーヌ・セイリグ(ナレーション)

愛する男と別れ、ロサンゼルスに住むフランス人女性エミリーは、自分と8歳の息子マーティンのために住む場所を探し、路上に捨てられた家具を拾ってきて設置する。彼女の混乱は、彼女自身よりも、彼女が観察する他の人々によって表現され、無言の、多重の亡命が生きられる。ヌーヴェル・ヴァーグを代表する監督、アニエス・ヴァルダ(1928-2019)が自らの作品の中でも最も愛した一本。

シモーヌ・バルベス、あるいは淑徳 ***Simone Barbès ou la vertu*** de Marie-Claude Treilhou

（フランス/1980年/76分/カラー/デジタル）

監督：マリー＝クロード・トレユー 出演：イングリッド・ブルゴワン、マルティヌ・シモネ、ミシェル・ドラウエ

ポルノ映画館で案内係として働く同性愛者の女性に起こった一夜の出来事が三部形式で描かれる。女優でもあるマリー＝クロード・トレユー（1948-）の監督デビュー作。公開当時大きな反響を呼ぶも、長い間あまり語られなくなっていたところ、ここ数年あらためて紹介され、女性たちの姿を描くその驚くべき現代性が高く評価され、トレユーの存在にも注目が集まっている。

◆現在活躍する女性監督たち◆



パリ、18区、夜 ***J'ai pas sommeil*** de Claire Denis （フランス/1994年/109分/カラー/35mm）

監督：クレール・ドゥニ 出演：カテリーナ・ゴルベワ、ベアトリス・ダル、アレックス・デスカス

女優をめざしリトアニアからパリにやってきたダイガは叔母の経営する18区の安ホテルに清掃の仕事をしながら下宿することに。その界限では老女を狙った連続殺人事件が起こっていた。昼も夜も休まずに人々が蠢いているパリ18区で様々な人生が交差する。アフリカにルーツがあり、ジャームッシュやヴェンダースらの助監督も務めてきたクレール・ドゥニ(1946-)の代表作の一本。



35杯のラムショット ***35 Rhums*** de Claire Denis （フランス＝セネガル＝ベルギー/2009年/100分/カラー）

監督：クレール・ドゥニ 出演：アレックス・デスカス、マティ・ディオップ、グレゴワール・コラン

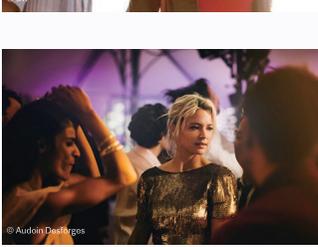
地下鉄の運転手リオネルは、娘のジョゼフィーヌと二人でパリ郊外に暮している。リオネルには近所に住むガブリエルという恋人がおり、一方ジョゼフィーヌにも心惹かれる男、ノエがいた。やがて父リオネルは愛する娘との別れが遠くないと感じ始める。マティ・ディオップは本作で娘のジョセフィーヌを演じ女優デビュー。小津安二郎へのオマージュが込められた作品で、父と娘の関係を詩情豊かに描いた秀作。ヴェネチア国際映画祭出品作品。



グッバイ・ファーストラブ ***Un amour de jeunesse*** de Mia Hansen-Love （フランス/2010年/110分/カラー）

監督・脚本：ミア・ハンセン＝ラヴ 出演：ローラ・クレトン、セバスティアン・ウルゼンドフスキー、マーニュ・ハーバード・ブレック

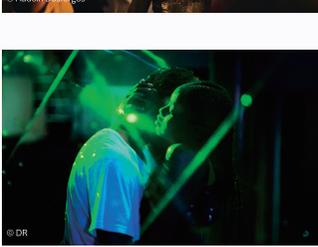
15歳のカミーユと19歳のスリヴァンは情熱的に愛し合っていたが、スリヴァンが去り、カミーユは悲しみに打ちひしがれる。4年後、建築学に打ち込むようになったカミーユは建築家で教師のロレンツと強い絆で結ばれるのだが、そこにスリヴァンが出現する…。ミア・ハンセン＝ラブ(1981-)の自伝的作品で、少女から大人になる過程が、瑞々しさと成熟さをもって描かれた眩いばかりに美しい作品。



ヴィクトリア ***Victoria*** de Justine Triet （フランス/2016年/97分/カラー/デジタル）

監督：ジュスティヌ・トリエ 出演：ヴィルジニー・エフィラ、ヴァンサン・ラコスト、メルヴィル・ポボー

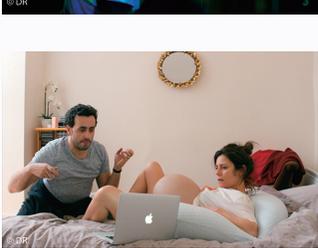
弁護士で、二人の娘の母であるヴィクトリアは職業上でも、プライベートにおいても危機的状況にさらされる。友人ヴァンサンの殺害未遂容疑の弁護を引き受けるわ、元夫の小説でネタにされるわ、以前担当した薬物事件の依頼人サムを住込みのベビーシッターとして雇うことになるわ、性生活はうまくいかないわ…。現代を生きる女性たちの迷走を生き生きと描いてみせるジュスティヌ・トリエ(1978-)の長編2作目。



アトランティック ***Atlantique*** de Mati Diop （フランス＝セネガル＝ベルギー/2019年/106分/カラー）

監督：マティ・ディオップ 出演：ママ・ビネタ・サネ、アマドゥ・エムボウ、イブラヒマ・トラオレ

都市開発が進むセネガルの首都ダカール。親に決められた裕福な男性との結婚を控えながらも、秘密の恋に身を焦がすエイダを襲った大きな悲しみ。愛する人に再会したいという彼女の願いは、思わぬ形で現実となる……。現代セネガル社会の暗部を映しながら意表を突くストーリーと幻想的なビジュアルイメージで唯一無二の世界観を打ち出したマティ・ディオップ(1982-)初長編作品。2019年カンヌ国際映画祭グランプリ受賞作品。



奥様は妊娠中 ***Énorme*** de Sophie Letourneur （フランス/2020年/101分/カラー/デジタル）

監督：ソフィー・ルトゥルヌール 出演：マリナ・フォイス、ジョナタン・コーエン

クレールは世界的な天才ピアニスト。夫でマネージャーのフレデリックと共に日々世界中を飛び回っている。子供は持たない、それが夫婦の共通認識だったが、40歳を迎えたフレデリックは、父になりたいとの強い思いに駆られ……。フランスの人気俳優ふたりを主演に迎え、医療関係、判事など実際にその職業に就いている人々も出演し、フィクションとドキュメンタリーが混ざり合って誕生したソフィー・ルトゥルヌール(1978-)による傑作コメディ。